関西電力における石綿使用状況（建物および設備）

平成17年８月５日現在

<table>
<tr><th colspan="2">対　象</th><th>使用箇所</th><th>現状（使用状況等）</th><th>備考（対応状況　他）</th></tr>
<tr><td colspan="2">石綿を含有する吹付け</td><td>自社建物の吸音材、断熱材、耐火材、変圧器の防音材</td><td>・自社建物：約３０棟（全数の１割以下）
・変圧器防音材：約６０台（全数の１割以下）</td><td>使用場所を把握し、計画的に対策を実施していく。
具体的には、取替を推進するとともに、使用場所に「アスベスト含有製品使用」等の表示を行い、定期的に状態を監視し、不具合箇所は対策を実施していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">石綿含有製品</td><td>建材</td><td>建物の耐火ボード、屋根材、床材等</td><td>・自社建物：約6,500棟（全数）</td><td rowspan="5">定期検査や修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。</td></tr>
<tr><td>防音材</td><td>変圧器の防音材
（変電設備、水力発電設備）</td><td>・約120台（全数の１割以下）</td></tr>
<tr><td>石綿
セメント管</td><td>地中線用の管路材料
（送電設備・配電設備）</td><td>・送電管路　約700km（亘長）（全長の約５割）
・配電管路　約811km（亘長）（全長の１割以下）</td></tr>
<tr><td>保温材</td><td>発電設備
（火力設備・原子力設備）</td><td>・石綿含有製品残数
（火　力）約105,000m３（全数の約４割）
（原子力）約　　3,900m３（全数の約２割）</td></tr>
<tr><td>シール材・
ジョイント
シート</td><td>発電設備
（火力設備・原子力設備）</td><td>（シール材）
・石綿含有製品残数：
（火　力）　約　３万５千個（全数の約４割）
（原子力）　約１８万８千個（全数の約９割）
（ジョイントシート）
・石綿含有製品残数：
（火　力）　約　５千個　（全数の約１割）
（原子力）　約２１万個　（全数）（※）</td><td>非石綿製品のあるものについては、定期検査や修繕工事の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。

（※）技術評価や検証などを行った上で、非石綿製品への移行を推進する。</td></tr>
</table>